

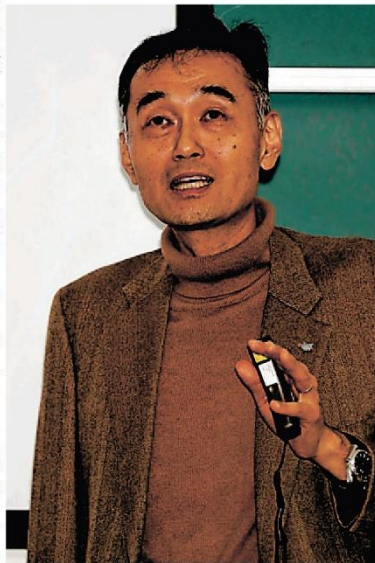
全ての経験は自分の成長につながる

経営トップ講義

① @県立大 2019~20

「ビジネス経済の実践」要旨

①



「厳しい環境が自分を成長させる」と話す水野代表取締役社長

県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

長崎キャノン代表取締役社長

水野 美幸氏(58)

2010年3月に東彼波佐見町で操業した。従業員は1040人で、平均年齢は29歳。若手が多く活躍しているのが特長だ。デジタルカメラやネットワークカメラなどのキャノン製品を生産している。目標は世界最高水準の多機能型生産拠点になることだ。デジタルコンバクトカメラの生産で培った光学技術を生かし、一眼レフカメラやプロジェクターなども生産している。どんな種類の製品でも、

世界最高水準のものを作れる会社に成長したい。私は1984年にキャノンに入社した。大分や香港での勤務を経て、2017年に長崎キャノンに赴任。19年5月から社長を務めている。これまでの経験から、二つのことを伝えたい。一つ目は、厳しい環境で得た経験が自分

を成長させるということだ。私は入社後、ビデオカメラの技術者になった。だが、当時のビデオ業界は他の大手企業が先行しており、ビデオ事業は赤字だった。これを解消するため、不良品を抑える設計構造、新たな生産工程の構築など何にでも挑戦した。結果、黒字に転換できた。

この経験を通し、仕事のスピード感や、自分のオール(かじ)は渡さないという当事者意識が身に付いた。つらいときも、今の経験が必ず自分の成長につながると思えば、前を向いて進んでほしい。二つ目は、人生の幸、不幸は予測できない。つまり人間万事塞翁(さいおう)が馬と換したとき、私は技術課長から調達課長に異動になった。技術部門を離れることにマイナスなイメージを抱いていたが、調達部門では会社間の交渉術や商取引の慣習、法律など、新しい知識やノウハウを習得できた。自分の思った通りの道でなくても、与えられた役目を精いっぱいやっていくと、今までにない自分を開拓できる。

「フラットな組織」を目指す

現在は社長として「フラットな組織」を目指している。若い社員が萎縮せず、自分の意見を発言し、思い切った活躍してほしいからだ。良いアイデアがひらめいたらすぐに発言ができ、完全否定のような意見を言わない。まずは受け止めてから議論するような職場風土にしたい。幸福だと感じている人の方が、仕事の生産性、創造性が高くなるという研究がある。働きやすい環境を整えることで社員の幸福感が高まり、最大限の能力を発揮できるようになる。人間には自分が思っている以上の力が宿っている。しかし、潜在能力を見つけれられるかどうかは、一生懸命人生に取り組んでいるかどうかにかかっている。自分の人生のオールは人に渡さず、常に高みを目指し、世の中に貢献する人材となってほしい。(湯村高大) 〓 次回は21日に掲載します 〓